



:修正前



:修正後

<別紙 2>

基本方向 2 未来へ繋ぐ心豊かな人づくりのまち



(1) 学校教育の充実

現状と課題、今後の方向性など

・学校教育は、生涯にわたる学習活動の基盤であり、子どもたちが社会の一員として持続可能な社会を担っていくためには、先哲の考えを手がかりに自ら考え、行動する力の育成やたくましく生きていくための健康や体力を育むことが求められています。そのためには、情報化社会の中で未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力などの育成が必要となってきますが、今日の教育現場を取り巻く状況は刻々と変化しており、誰もが安心して楽しく学ぶ学習環境づくりなど解決せねばならない課題も多く、保護者や地域住民の学校教育に対する要望も増加するとともに多様化しています。

・本町では、子どもたちの学ぶ意欲や豊かな人間性を育むため、地域との協働を推進し、特色ある学校づくりを進めてきました。今後は、さらに地域との協働を推進するなかで、子どもたちが自らキャリア形成を図る力や、持続可能な社会の担い手となるために必要な資質・能力を育むため、ICT教育、国際理解教育、キャリア教育※1などを進めていきます。特に、国際理解教育については、子どもたちが多様な他者との関わりをもちながら日本と諸外国との違いを理解し、多言語・多文化を受け入れられるよう交流機会を提供します。そして、SDGsに即した国際理解教育の推進を通して、子どもたちの課題を解決する力や共生力を育てていきます。また、新学習指導要領に「持続可能な社会の作り手の育成」が追加されたことを受け、SDGsに関する取り組みを推進します。

R5
修正

・学校施設の耐震化率は、平成25年度に100%になりましたが、各学校ともに施設の老朽化が進み、安心して学べる教育環境の整備が必要となっています。現在の施設の維持・管理を適切におこない長寿命化を図ると同時に、非構造部材の耐震化やバリアフリー化を含めた計画的な改修を進めていきます。

・給食の時間を通じて健康な体をつくることを学び、児童生徒の発達段階に応じて、望ましい食習慣・食生活についての理解と実践力がつくように指導しています。また、給食の献立を、授業内容に関連させたもの、本に出てくるもの、外国のもの、郷土料理など児童生徒が興味関心を高められる工夫をすることで、豊かな心を育みます。

・いじめ・不登校の解消に向けた取り組みについては、各学校において対策をとっていますが、引き続き、各学校と協議・連携し、いじめの解消や不登校の児童生徒に対する学びの保障に向けた取り組みを強化する必要があります。

※1 キャリア教育：児童生徒一人ひとりの勤労観や職業観を育てる教育のこと。

主な取り組み

①安心して学べる教育環境の整備

- ・ 学校施設の長寿命化の推進
- ・ 安心して安全な学校給食の提供の継続
- ・ 地域との連携、協力による教育環境基盤の充実
- ・ 児童生徒の安全の確保

②子どもの「生きる力」を育む教育の実現

- ・ 確かな学力の定着
- ・ 多様性や協働性を重視した道徳や人権教育の推進
- ・ 健康で健やかな体づくりの推進
- ・ 夢を描くキャリア教育の推進
- ・ 情報、環境、国際理解教育の推進
- ・ 給食センター、学校、家庭が連携した食育の推進

③地域ぐるみの教育の推進

- ・ コミュニティスクールのさらなる推進
- ・ 地域の歴史、伝統文化を尊重した教育の推進
- ・ 各学校の主体的事業に対する支援の充実
- ・ 学校教育における地域人材の活用

④きめ細やかな教育環境の確立

- ・ 特別支援教育※2に関する環境整備の推進
- ・ いじめの解消や不登校の児童及び生徒に対する学びの保障に向けた取り組みの強化
- ・ 教職員研修への支援

※2 特別支援教育：障がいのある幼児・児童・生徒の自立や社会参加に向けた主体的な取り組みを支援するという視点に立ち、幼児・児童・生徒一人ひとりの教育的ニーズを把握し、その持てる力を高め、生活や学習上の困難を改善又は克服するため、適切な指導および必要な支援を行うもの。

まちづくり指標 (重要業績評価指標 KPI)	現状値 (令和元年度)	中間値 (令和7年度)	目標値 (令和12年度)
学校給食における県産野菜の使用割合 (%)	16.0 %	20.0 %	20.0 %
中学校卒業時の英検3級合格者数の割合 (%)	22.0 %	50.0 %	50.0 %

R6.44 頁へ移動



:修正前



:修正後

<別紙 2>

基本方向 2 未来へ繋ぐ心豊かな人づくりのまち



(2) 青少年の健全育成・若者支援の推進

現状と課題、今後の方向性など

・インターネットなどの利用に関するトラブルや核家族化の進行、不登校や引きこもり・ニートの増加など青少年を取り巻く環境や抱える問題は一層深刻化しています。今後も、町内の子どもの居場所づくりの推進と体験学習の場の提供、地域の人や異なる年齢の子とのふれあいを目的に設立された「こどもわくわく広場実行委員会」や「子ども会育成協議会」の支援をはじめ、各種社会教育関係団体や地域社会、行政との連携を通じて、青少年健全育成および青少年活動の活性化に取り組み、青少年（中学生など）が参加できる地域活動・ボランティア活動の充実や、活動への参加・参画、あいさつなどのモラル・ルール・マナーを大切にしたい地域ぐるみの道德教育を推進していきます。

・青少年海外派遣事業として、平成 27 年 12 月に笠松中学校が姉妹校提携したイナラハン・ミドルスクール（グアム）へ中学生を派遣し、学校間および生徒間の交流を実施してまいりました。今後も両校の交流を一層促進し、異文化体験を通じて国際感覚を養い、国際化に対応した人材の育成を推進していきます。また、地域間交流事業として、笠松中学校生徒を国内に派遣し、学校間および生徒間の交流の推進を図ります。

主な取り組み

① 青少年の地域活動への参画支援

- ・学校、家庭、地域との連携の強化
- ・青少年の健全育成に向けた意識啓発
- ・青少年を有害環境から守る活動の促進
- ・青少年の非行、被害防止への啓発

② 青少年が活発に活動できる環境の整備

- ・青少年団体の活動支援
- ・国際交流活動の推進
- ・地域間交流活動の推進
- ・世代間交流や親子交流の促進
- ・青少年の地域活動への参加促進

R6.修正

まちづくり指標 (重要業績評価指標 KPI)	現状値 (令和元年度)	中間値 (令和 7 年度)	目標値 (令和 12 年度)
わくわく広場などの参加率	14 %	17 %	20 %
わくわく広場の参加率	71 %	78 %	85 %
海外派遣生徒の満足度	98 %	100 %	100 %
地域間交流派遣生徒の満足度	新規事業	95 %	100 %
中学校卒業時の英検 3 級合格者数の割合 (%)	22.0 %	50.0 %	50.0 %

R6.43 頁から移動